

古典を読んでみよう ⑤

俳句 ②

小林一茶

雀の子 そのけそこのけ お馬が通る  
すずめのこ そのけそこのけ おうまがとおる  
春

やせ蛙 負けるな一茶 これにあり  
やせがえる まけるないっさ これにあり  
春

雪とけて 村一ぱいの 子どもかな  
ゆきとけて むらいっぱいの こどもかな  
春

名月を とつてくれろと 泣く子かな  
めいげつを とつてくれろと なくこかな  
秋

うまそうな 雪がふうはり ふわりかな 冬  
うまそうな ゆきがふうわり ふわりかな 冬

小林一茶 江戸時代の俳人。